

菅野先生が考える...

### 附属学校の強みと使命

- 卒業生を追い続けられる

→ 生涯をみずえ、学校教育で何を育めるか見つけやすい!

### 課題は...?

- 1) 生涯をみずえに学びと学習指導要領を基にした学びにどう位置づけるのか
- 2) 個別での学びを集団での授業づくりはどうつなげるか

電車で見つけたときのたろ  
大人にならば、教えなくてもいいことが増えていく、不思議だね。

学齢合期は、終着点ではない!!

人を育く過程で...

### 大切に育みたい力



... かわるも通は育く

### 支援機関の課題は?

生活支援と余暇支援

暮らす力と学び楽しむ力

雇用先が重視すること

→ 理解し行動する、あいつらetc

コミュニケーション (円滑な対人関係)

障害者は生涯

発達し続けられるのか?

活躍・活動に参加していく上

### 制限・制約はどこから?

- (知的) 障害があることから
- 年齢による発達合から

成年期以降は...

知的障害 + 健康発達合者  
プログラム + プログラム

AAMR第9版の10領域

ICFの活動と参加の9領域

融合して、再分類



生涯発達・地域生活支援 4領域

この領域で生涯学習を考えると...

各年齢ごとの領域を  
どれくらい支援するのかわる、とくる

どこといふのが現状ど

講師  
菅野 敦 氏

秋田大学名誉教授  
日本発達障害学会  
理事長



《講演》

2021.9.18. 14:45~15:55

## 生涯学習力を高めるために 学校で積み重ねる学びについて

でも...実際の  
社会や生活に関わる  
支援ニーズは?

→ 学業や学習に対するニーズは  
ほとんどなくなる...!

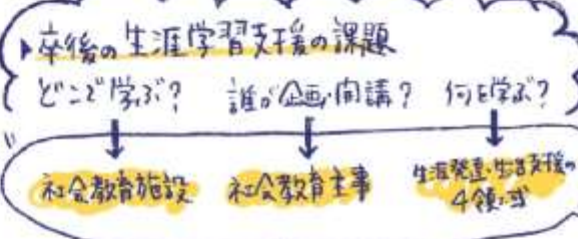
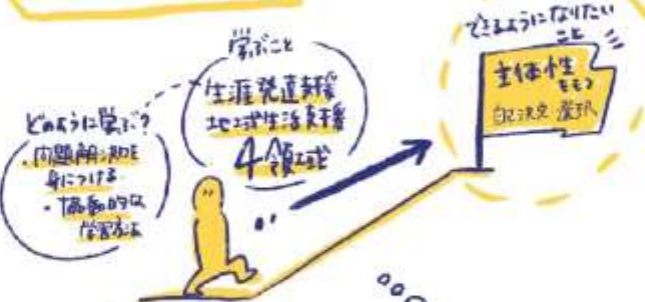
→ 生活能力が高くなる

オナカレの棘の調査  
どんな学びが求められている?  
→ 自己決定・自己選択  
...に向ける学びのニーズが高い!!

考察  
「資源があることを知らなければ」  
ニーズにたがはいのぞ?

### 生涯学習支援の 方向性

何を準備する?  
何を提供する?



### 主体的に学習に向う態度

障害者支援において目指す主体性

自分の意識を判断によって  
自覚的に行動すること



### 卒業後の学びの推進方策

学校から社会への移行期に必要な学習

→ 学びへの姿勢・学びに向かう態度

→ 課題解決の可能性・学びへの態度

生涯の各ライフステージにおいて必要な学習

→ 生涯学習マップの活用

どのライフステージでどんな支援・課題がある?

選択問題の解決過程の分析に基づく自己選択行動の形成も必要!

学校教育(12年間)に限られている。学校教育に特化してし、つづけることが大切!

### 生涯学習の支援で目指したい

各期に4領域の  
活動・学習を通じ態度を育てる

障害のある児童生徒の生涯学習を目標とする

- ① 学びに向かう態度
- ② 学びによる態度(学び続けること)

【課題】教育課程にどう位置づける?  
個別の支援と集団での授業に  
どうなげる?